

外為マンズレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/03/01

先進三か国のイベントが大波乱要因

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	原油価格の動向が引き続き重要 予想レンジ: 76.000 ~ 84.000 円	2 - 3
NZドル/円	➡	RBNZのスタンスを要確認 予想レンジ: 69.000 ~ 77.500 円	4 - 5
ランド/円	➡	リスクオフ時に最も下げる通貨に? 予想レンジ: 6.200 ~ 7.500 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

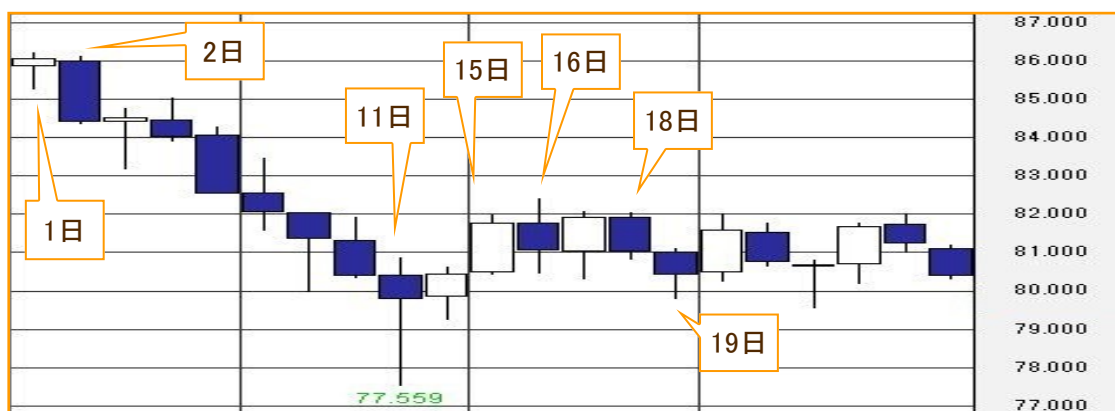
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 2月の推移

AUD/JPY

2月の豪ドル/円相場は77.559～86.217円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約6.3%の下落(豪ドル安・円高)となった。

前半は、原油先物や主要国株価の下落を受けたリスク回避ムードの中で円買い優勢で推移。11日には77.559円と、2012年6月以来の安値を付けた。ただしこの日、本邦当局による円売り介入の思惑から円が急落した事で、豪ドル/円も下げ幅を縮小。中旬には、石油輸出国機構(OPEC)とロシアの石油増産維持協議、それに絡む産油国の要人発言に一喜一憂する原油価格に振らされる展開となった。ただし下旬に入ると、NY原油先物は戻り歩調を辿っていたが、為替市場では全般的にリスク警戒ムードが広がっており、積極的に円売り・資源国通貨買いが出ず、豪ドル/円は大きな方向感が出なかった。



四本値

OPEN	85.902
HIGH	86.217
LOW	77.559
CLOSE	80.417

1日	中国1月製造業PMIが49.4(市場予想:49.6)、1月非製造業PMIが53.5(前月:54.4)と双方弱い結果だった事を受け、豪ドル/円は85.306円まで一時下落。ただしその後発表された中国1月財新/製造業PMIは48.4と市場予想(48.1)を上回ったため、豪ドル/円は小戻した。
2日	豪中銀(RBA)は市場予想通りの政策金利据え置きを発表。声明では「豪ドルは経済の見通しの変化に引き続き適応」「金融政策は緩和的である必要」「今後労働市場と金融の混乱を検証」「2015年に非鉱業部門の経済が強まった」「低インフレ継続で政策緩和の余地生じる可能性」「ビジネスの状況は平均上回る、雇用の伸び拡大」などとした。金融市場の混乱や低インフレに懸念を示しつつも、国内の経済や雇用に関して比較的楽観的な見方を示した事から、発表直後の豪ドルは上昇した。しかし、その後は日経平均の下げ幅拡大を眺めて豪ドル/円は軟化した。さらに、石油輸出国機構(OPEC)とロシアの減産協議不調との見方が広がる中でNY原油先物が下落すると、豪ドル/円も下値を切り下げた。
11日	時間外のNY原油先物が軟調に推移した事や、欧州株価が軒並み下落した事から、リスク回避の円買いが活発化。豪ドル/円は2012年6月以来となる77.559円まで急落した。しかし、同じく急落していたドル/円(一時111円ちょうど前後)が急反発した事で豪ドル/円は下げ幅を縮めた。
15日	中国1月貿易収支は4062.0億円の黒字と予想(3890.1億円の黒字)より強め。しかし、輸出は前年比-6.6%(予想:+3.6%)、輸入は-14.4%(同:+1.8%)とかなり弱い内容だった事から、豪ドル高で反応した後ですぐに上げ幅を縮小した。もっとも、日経平均が堅調な中で、豪ドル/円はその後は上昇基調に復帰した。
16日	カタール・エネルギー相が「ロシア・サウジの石油相らとの会合で、生産を1月の水準で凍結する事で合意」と発言した事が報じられるも、「他の主要産油国が追随する事が合意の条件」である事や、減産期待に反して「生産量維持」となった事に失望して、NY原油価格が下落。これを受けてリスクオフムードが強まると、豪ドル/円は軟化した。
18日	豪1月の失業率が6.0%(市場予想:5.8%)、就業者数は0.79万人減(同:1.30万人増)と予想に反して弱い結果となった事から豪ドル/円は急落。さらに、米EIA週間石油在庫統計でガソリン在庫が大幅に増加した事や、サウジアラビアが減産に後ろ向きな姿勢を示した事などからNY原油先物が下落すると、豪ドル/円は下値を切り下げた。
19日	RBAのエドワーズ氏が「1ドル=0.65ドルがより居心地がいい」とコメントすると、79.994円まで豪ドル売りが強まった。ただ、NY市場でNYダウ平均やNY原油が下げ幅を縮小する中、豪ドル/円も小戻した。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	17699.60
HIGH	17905.37
LOW	14865.77
CLOSE	16026.76

NYダウ平均

OPEN	16453.63
HIGH	16795.98
LOW	15503.01
CLOSE	16516.50

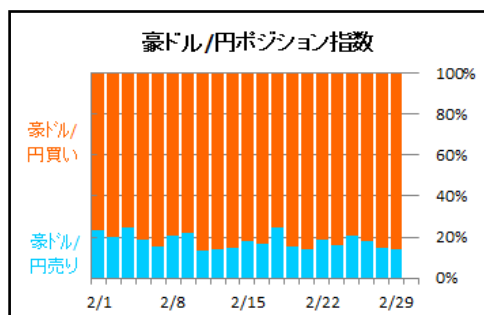
上海総合指数

OPEN	2730.984
HIGH	2933.964
LOW	2638.963
CLOSE	2687.979

豪10年債利回

OPEN	2.602%
HIGH	2.662%
LOW	2.341%
CLOSE	2.399%

2月のポジション動向



3月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・2月中国財新製造業PMI(1日)
- ・RBAキャッシュレート(1日)
- ・10-12月期豪GDP(2日)
- ・1月豪貿易収支(3日)
- ・1月豪小売売上高(4日)
- ・2月米雇用統計(4日)
- ・10-12月期日GDP・2次速報(8日)
- ・1月日国際収支-貿易収支(8日)
- ・2月中国貿易収支(8日)
- ・RBA議事録(15日)
- ・日銀金融政策決定会合(14-15日)
- ・2月豪雇用統計(17日)
- ・主要国株価、国際商品価格

3月の見通し

豪ドル/円は2月、独自材料で動く様子はほとんど見られず、原油価格の動向を眺めてのリスクオン・リスクオフの流れに振られる事となった。ただし、その原油価格についても、2月後半以降はOPECとロシアの協議の行方が不透明感を増し、要人発言に一喜一憂する中で金融市場全体として大きな方向感が出にくくなっていった。

3月1日の昼ごろに発表されたRBAの声明では、市場予想通り政策金利が据え置かれ、前月分からの大幅な修正は見られなかった。そのため、RBAによる近い将来の金融政策変更を急速に織り込もうとする動きは期待できない。2月と同様に原油の生産量に関する産油国間の協議の行方を受けた原油先物価格の動向や、この月に複数予定されている他の主要各国の金融政策発表が主な手がかり材料となつてこよう。10日の欧州中銀(ECB)の理事会では追加緩和観測が強く、その内容次第が市場の期待に応える規模であれば株高要因となり、リスクオン→豪ドル/円上昇となる可能性がある。しかし一方で、ECBが何も追加策は打ち出さない、もしくは期待外れの内容だった場合は、リスクオフ→豪ドル/円失速、という動きになりそうだ。さらに、米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明および経済・金利見通しの発表(16日)や、日銀の金融政策決定会合など、金融市場全体のリスクオン・オフに影響し得るイベントが多い。豪ドル/円はこうした大型イベントに振られる1カ月になりそうだ。

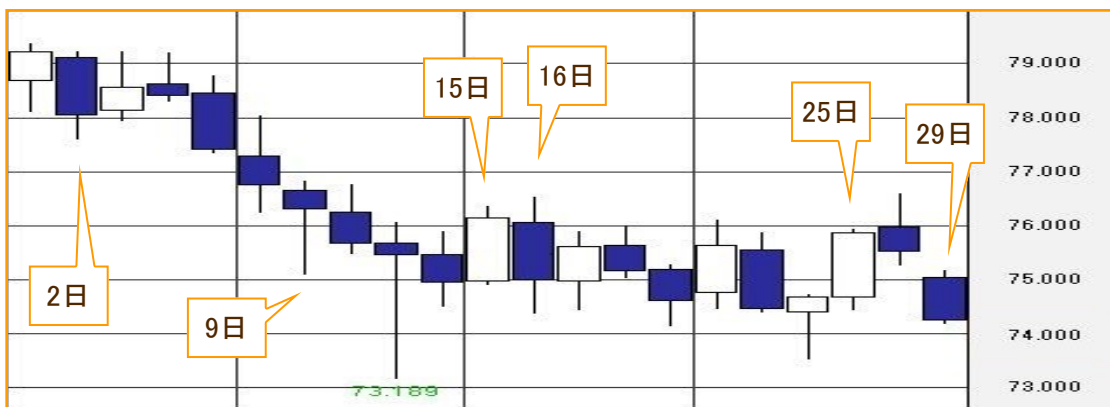
(予想レンジ: 76.000~84.000円)

NZドル/円 2月の推移

NZD/JPY

2月のNZドル/円相場は73.189～79.378円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約5.4%の下落(NZドル安・円高)となった。

2月前半は原油先物や主要国株価の下落を受けてリスクオフムードが強かった。その中で、NZドル/円は円主導で下落。11日には2015年8月以来の安値となる73.189円まで値を下げた。ただし、この日に関しては日本からの円売り介入に対する思惑的な円売りによって下げ幅を縮小。その後は石油輸出国機構(OPEC)とロシアの石油増産維持協議、それに絡む産油国の要人発言に一喜一憂する原油価格を眺め、リスクに対する警戒観が強い中、NZドル/円は方向感に乏しい展開となった。



四本値

OPEN	78.699
HIGH	79.378
LOW	73.189
CLOSE	74.269

2日	日経平均が下げ幅を拡大する中でNZドル/円は軟調に推移。NZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数が前月比-7.4%となり、一部重石となった模様。ただしNY市場終盤に発表されたNZ10-12月期雇用統計において失業率が5.3%と市場予想(6.1%)に反して大幅に改善し、雇用者数増減も前期比+0.9%と市場予想(+0.8%)以上に増加した事で、NZドルは下げ幅を縮小した。
9日	日経平均が大幅に下落し、本邦10年債利回りが史上初のマイナス圏に突入するなどリスク回避の動きが強まると円買いが強まり、NZドル/円は下落。ただし、その後に日銀がレートチェック(市場の動きを牽制するため日銀が民間銀行に為替相場の水準をヒアリング)を行ったとの噂が流れると、ドル/円が反発し、NZドル/円も連れて下げ幅を縮小した。
15日	中国1月貿易収支は4062億円の黒字と予想(3890.1億円の黒字)より強め。しかし、輸出は前年比-6.6%(予想:+3.6%)、輸入は-14.4%(同:+1.8%)とかなり弱い内容だった事から、豪ドル高で反応した後ですぐに上げ幅を縮小した。もっとも、日経平均が堅調な中で、NZドル/円はすぐに上昇転換した。なお、NY市場終盤に発表されたNZ10-12月期小売売上高(インフレ調整前)は前期比+1.2%と市場予想(+1.5%)を下回り、発表直後は小幅にNZドルが売られたものの、反応は一時的だった。
16日	NZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数が前月比-2.8%となった事などが重石となってNZドル/円は下落。さらに、カタール・エネルギー相が「ロシア・サウジの石油相らとの会合で、生産を1月の水準で凍結する事で合意」と発言した事が報じられるも、「他の主要産油国が追随する事が合意の条件」である事や、減産期待に反して「生産量維持」となった事に失望して、NY原油価格が下落すると、リスクオフムードが強まり、NZドル安・円高がさらに進んだ。
25日	欧州株が堅調に推移する中で円安が進んだ上、ベネズエラのデルピノ石油・鉱業相が「ロシア、サウジアラビア、カタールは3月の会合開催に合意」と発表してNY原油が33ドル台を回復するとリスクオンムードが広がり、クロス円は全般的に上昇。NZドル/円の追い風となった。なお、NZ市場終盤に発表された1月NZ貿易収支は800万NZドルの黒字と、市場予想(2.71億NZドルの赤字)に反して良好な結果となったが、NZドルの反応は限られた。
29日	未明に発表された1月NZ住宅建設許可が前月比-8.2%と前月(+2.3%)から減少していた事を受け、NZドル/円は窓を開けて下げて始まった。その後も軟調な上海株などが重石となって、アジア市場終盤にかけて下値を切り下げた。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	17699.60
HIGH	17905.37
LOW	14865.77
CLOSE	16026.76

NYダウ平均

OPEN	16453.63
HIGH	16795.98
LOW	15503.01
CLOSE	16516.50

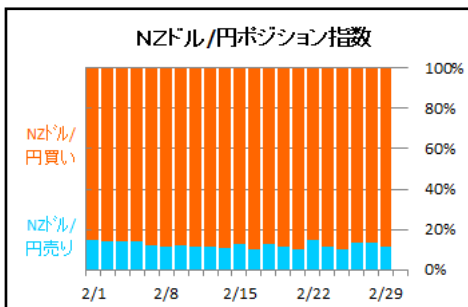
上海総合指数

OPEN	2730.984
HIGH	2933.964
LOW	2638.963
CLOSE	2687.979

NZ10年債利回

OPEN	3.208%
HIGH	3.208%
LOW	2.966%
CLOSE	2.970%

2月のポジション動向



3月の注目ポイント

月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・2月中国財新製造業PMI(1日)
- ・NZフォンテラ入札(1日、15日)
- ・2月米雇用統計(4日)
- ・日10-12月期GDP・二次速報(8日)
- ・1月日国際収支-貿易収支(8日)
- ・2月中国貿易収支(8日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート(9日)
- ・日銀金融政策決定会合(14-15日)
- ・10-12月NZ期経常収支(16日)
- ・2月NZ貿易収支(24日)
- ・2月NZ住宅建設許可(31日)
- ・主要国株価、国際商品価格

3月の見通し

3月のNZドルを見る上で最も注目されるのは、NZ中銀(RBNZ)のオフィシャルキャッシュレート(政策金利)とその声明文の発表になるだろう。前回1月27日のRBNZの声明は、「為替レートの上昇は輸出価格の低下が続く中では適切」「金融政策は引き続き緩和的だろう」「今後1年で若干の追加緩和が必要となる可能性がある」「世界経済の強さに対する不確実性は、中国や他の新興国市場の成長減速懸念で増した」などと、それまでの政策据え置き姿勢から一転して利下げを視野に入れた声明文となった。3月9日のRBNZの理事会では政策据え置きと見る向きが大勢だが、一部金融機関は利下げ予想を出している。2月もGDT物価指数は低下し続けている事もあり、市場のRBNZの利下げ期待は見えない部分で大きくなっている可能性もありそうだ。ここで利下げが決定される、あるいは近い将来の利下げに向けてより踏み込んだ声明文言になっていけば、NZドル/円には一段の下落圧力が掛かるだろう。もちろん、日々のNZドル/円の動きは原油先物や主要国株価の動向などに振られる状態が続くと考えられるが、利下げ期待が高まれば、外部要因ベースでリスクオフに傾いた場合に、他の資源国・新興国通貨と比較して「より売られやすい通貨」となる可能性がある。

なお、金融市場全体のリスクオン・オフに関わる重要イベントとして、欧州(9日)、米国(16日)、日本(17日)などの金融政策発表発表にも注目しておきたい。欧州と日本に関しては追加緩和期待が広がっているが、何も打ち出されない、あるいは失望に終わる内容だった場合はリスクオフの引き金となりかねない。その場合もやはりNZドル/円の重石となろう。

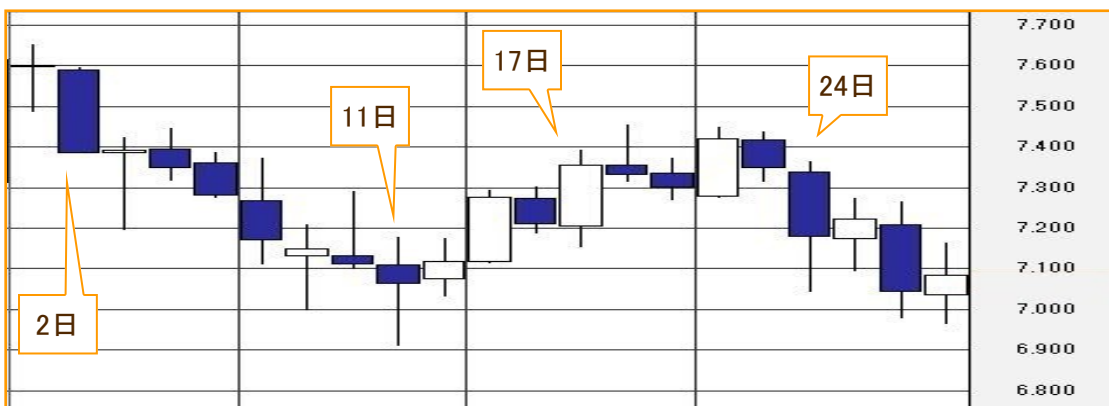
(予想レンジ: 69.000~77.500円)

ランド/円 2月の推移

ZAR/JPY

2月のランド/円相場は6.913～7.653円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約7.0%の下落(ランド安・円高)の推移となった。

2月前半は、金融市場全体に広がった原油安などを背景とするリスクオフの流れの中で、南アランド/円も大幅に下落した。11日に6.913円の安値を付けた後は下げ幅を少しずつ縮める格好となったが、24日に発表された南アフリカの予算報告を受けて南アフリカの先行き対して却って不透明感が広がり、ランド売りを強める格好となった。



四本値

OPEN	7.602
HIGH	7.653
LOW	6.913
CLOSE	7.087

2日	OPECとロシアの減産協調不調との見方が広がる中でNY原油が下値を切り下げるとリスクオフムードが広がり、南アランド/円は下落した。
11日	時間外のNY原油先物が軟調に推移した事や、欧州株価が軒並み下落した事から、リスク回避の円買いが活発化。南アランド/円は一時6.913円まで下落。しかしその後、111円ちょうど前後まで下落したドル/円が、一時113円台まで急反発した影響を受けて南アランド/円も下げ幅を縮小した。
17日	南ア1月消費者物価指数は前年比+6.2% (予想: +6.0%)、コア前年比は+5.6% (同: +5.3%)と予想を上回る結果になった事でわずかに南アランド買いが優勢となる場面が見られた。その後、石油輸出国機構(OPEC)とロシア、カタール、ベネズエラが1月の水準で石油生産量を維持する事で合意した件についてNY原油先物がイランのザンギャネ石油相が「原油相場安定化に向けた措置を支援」とし、NY原油が上昇した事などもあってクロス円が概ね堅調さを見せる中、南アランド/円も上昇した。
24日	南アフリカのゴードン財務相が、2016-17年度の財政赤字見通しを対GDP比で+3.2%と、2015-16年度の3.9%から引き下げる方針を発表したものの、予算報告において様々な歳出削減措置や増税が盛り込まれた事によって景気圧迫懸念が強まったと市場が受け止め、南アランドは下落。主要国株安などもあり、一時ランド/円は7.046円まで値を下げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

日経平均

OPEN	17699.60
HIGH	17905.37
LOW	14865.77
CLOSE	16026.76

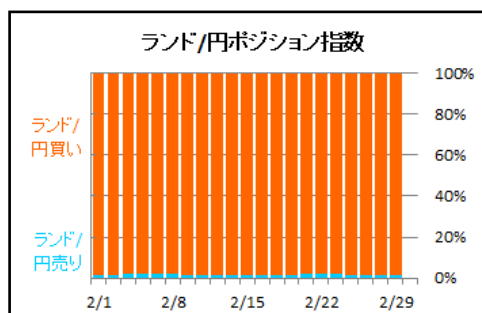
NYダウ平均

OPEN	16453.63
HIGH	16795.98
LOW	15503.01
CLOSE	16516.50

N Y 金

OPEN	1118.00
HIGH	1263.90
LOW	1115.30
CLOSE	1234.40

2月のポジション動向



3月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・2月中国財新製造業PMI(1日)
- ・10-12月期南アGDP(1日)
- ・2月米雇用統計(4日)
- ・10-12月期日GDP・二次速報(8日)
- ・1月日貿易収支(8日)
- ・2月中国貿易収支(8日)
- ・10-12月期南ア経常収支(13日)
- ・日銀金融政策決定会合(14-15日)
- ・1月南ア小売売上高(16日)
- ・SARB政策金利発表(17日)
- ・2月南ア消費者物価指数(23日)
- ・2月南ア貿易収支(31日)
- ・主要国株価、国際商品価格

3月の見通し

3月も南アフリカランドは独自材料というよりは外部要因に翻弄されると考えられる。この点は豪ドル/円やNZドル/円と同様だ。ただし、南アランド国内の状況は非常に厳しく、2月に歳出削減と増税を盛り込んだ予算案を提出してもなお、同国の格付けについて、投資適格級未満に引き下げられるとの懸念は強い。ゴードン財務相は2016-17年度には追加的な歳入が181億ランドほど得られるとの見解を示しているが、その代わりに、2016年のGDP成長率見通しを前期比年率+0.9%と、以前の見通し(+1.7%)から大幅に下方修正した。こうした環境下で、1月前半、2月前半のように金融市場全般でリスクオフムードが強まると、南アランドは他の通貨よりもより売られやすい状態になる。実際、2月の南アランド/円は約7.0%の下落と、豪ドル/円(約6.3%の下落)やNZドル/円(約5.4%の下落)以上に売られている事がわかる。引き続き、下振れリスクに対する警戒は怠らぬにしたい。

現状、市場では未だ落ち着きを見せない産油国による生産量についての協議の行方を受けて原油先物価格が荒れる可能性が残っている。さらに、3月は欧州(10日)、米国(16日)、日本(17日)がそれぞれ金融政策を発表する予定となっている。欧州と日本については追加緩和期待、米国については利上げ観測はほとんどないものの、今後の利上げペースについて、米連邦公開市場委員会(FOMC)がどのような見通しを示したかについての関心が高く、どのイベント直後も金融市場全体が動揺する可能性が高く、南アランド/円も乱高下となる公算だ。

(予想レンジ: 6.200~7.500円)